



いじめ防止 市長権限削除の

為のパブリックコメント・・・？！

9月議会は、長良小学校プール建設費の「補正削減予算を修正」が大きな話題（修正案可決・削減原案否決）となりました。同時に、「いじめが原因の中学3年生自死」（2019年7月3日）を一年間議論し「いじめ防止対策条例（案）」が提案された大事な議会でした。岐阜新聞では9月26日から特集が始まりました。この「防止条例」は、幾つか不十分なままの制定と、市民の疑問が残りました。

13人の意見書で、市長権限（是正勧告）を削除！ **教育長**

ハガキ・89人でも「いじめを許さない日」に改善しない？！

「いじめ防止条例」への市民意見をお聞かせ願う「パブリックコメント」への関心は大きく、134人の市民・団体から寄せられました。最近3年間（H29、30、R元で全41件）のパブコメに寄せられた市民の意見数は、1件に対し平均6.8人です。この数字だけでも、市民の関心の大きさが解かります。しかし、当初の市長の「是正勧告」権限は、「13人の意見書があった」ことを「多くの意見があった」（教育長）として「市長及び教育委員会の連携」へ後退（市長権限欠落）。

89人の市民がハガキで意見を寄せられました。① 情報隠蔽をしてはならない教員の義務明記 ② 「いじめを見逃さない日」ではなく「いじめを許さない日」にすべき。③ 事件報告書の岐阜市ホームページへの公開。は、条例に強化される事はありませんでした。

パブコメは意見の^{たか}多寡で意思決定を判断する制度ではない **教育長**

1年間、問われたのは「シュレッダー」に代表される教育現場の隠蔽体質ではなかったのか。教育長にとって「13人の都合の良い意見」（市長権限削除）は聞いて、「都合の悪い89人の意見」（隠蔽してはならない教員義務明記）は、「数が多く」ても「聞きたい意見」ではないようです。子どもに「いじめを見逃さない日」を教育する前に「見逃していた」のは「教員」であり、「いじめ問題対策会議」の開会を年2回（事件前）に止めていたのは、早川三根夫教育長である事を反省し総括すべきです。

誤ったメッセージを、企画部は指摘を！

「教育行政の政治的中立」と子どもの命

岐阜市議会総務委員会での質疑です。企画部が市長の主催する会議として「教育に関する」各種会議を開催されている。会議の開催や、時に市長が「子どもの命を守る」為に「教育について発言する」事にも「教育行政の政治的中立」に対する「介入」と発言する人を見るときがある。その時の、企画部の反応が「毅然」としていない。

戦前の軍国教育を反省した、教育基本法

「教育の政治的中立」は戦前の軍国教育を反省し、教科書に軍隊の絵が登場し、小さな子ども時代から「軍国主義」を植えつける戦前教育に戻さない為に、独立した機関として、現在の教育委員会が設置されたと理解しています。教科書に「戦争反対」と書いてあるのに、「戦争賛成と書いてある副読本を使え」と、首長の発言がもしあっても「拒否」出きる様に教育委員会が存在すると。「教科書の平和教育の中味」を変更要求するような事は「教育への介入」と批判される事です。教育基本法の本質とします。

「子どもの命を守る」為の市長発言 は 介入ではない

「政治的中立」を 理解出来ていない教育長・・・？

「子どもの命を守る」為に市長が各種施策を展開する事は、「教育への介入」とは言えない。企画部は、議会内外での質問に「的確」「毅然」と反論すべきです。

さて、驚く事に、教育長は議会答弁で、**13人の意見**について「教育行政の政治的中立に関する意見が多く寄せられました。」と「多く」と答弁し、これを理由に市長の「是正勧告権限」を削除しました。パブコメを市長権限排除の道具に使ったとの市民批判があります。これは「政治的中立」の悪用？ 早川三根夫教育長の理解不足・・・？

教育には「市長に一切発言させない」との意思表示でしょうか・・・？

早川三根夫教育長には、「首長の介入」を話題にする前に、1年前の事件を回避できなかった教員の代表者であり、給与減額わずか約44万円とはいえ、処分された側の人間であるとの自覚が不足しているとの市民の声があります。

89人の市民は、「隠蔽体質改善」「いじめを許さない日」「いじめ事件報告書の市ホームページ公開」を求めましたが、『多くの意見が寄せられた』との早川答弁は無いままです。

